

モデルのない構成課題(入れ子課題)において既得の行動に固執する自閉スペクトラム症の生徒への方略使用の促進

○木山清貴 樋口和彦 小川巖 三島修治
 (鳥取県立米子養護学校) (鳥根大学教育学部) (鳥根大学教育学部) (鳥根大学大学院教育学研究科)

KEY WORDS: 重度の自閉スペクトラム症、構成行為、方略

1. 目的

構成行為に問題があると予測され、既得の行動に固執する重度の自閉スペクトラム症の子どもに構成的課題を行うことにより、状況に応じた方略を使用した構成行為の促進を試みる。

2. 方法

(1) 対象児 B 特別支援学校高等部 3 年生男子(以後 A とする)。知的障がい、自閉スペクトラム症(自閉性障がい)と診断されている。本事例報告に関して保護者および学校長の許可を得ている。改訂版田中ビネー検査: IQ19(20XX 年-4 年 6 月実施)、S-M 社会能力検査: SQ32(20XX-1 年 8 月実施)、新版 K 式発達検査 2001: 全領域 13.7, 認知・適応 16.1, 言語・社会 10.7(20XX 年 6 月実施、数値は発達指数を示す)。基本的な日常生活動作はほぼ自立している。日常場面では、意思伝達を絵カードで行っている。入れ子課題では、提示された入れ子を左側に配置したのから順番に手にとり、大きさに関係なく中央のカップに重ねる行動に固執していた。そのため、状況に応じた方略を用いた構成行為がうまく行えていない可能性が考えられた。特定のやり方にこだわる自閉スペクトラム症の特性から、修正行動が難しく、構成行為に影響を与えている状況であると考えられる。渡邊(2003)は、不適切な方略を自己修正するためには、解決者の点検活動が重要な役割を果たすと述べている。

(2) 期間 20XX 年 6 月~20XX 年 11 月(第 I 期: 6 月 26 日~9 月 16 日、第 II 期: 9 月 25 日~11 月 13 日)

(3) 調査場面・課題内容 週 1 回の頻度で計 11 回、1 回につき 45 分間、B 特別支援学校高等部の教室にて授業実践を行った。A と指導者は机を挟んで対面する形で座った。「カップ(3 個異色、3 個同色、5 個同色)」、「カップ 5 個同色と大容器 1 個の課題」(以後 5 個と大容器の課題)の 4 通りの入れ子課題を設定した。

(4) 評価方法 課題に必要な材料を渡し、「重ねてください」と言葉かけを行った後、A が「できました」と手話

で伝えるまでの操作をデジタルビデオカメラで記録、分析した。操作は、「配置」と「修正行動」に分類して評価した。

(5) 指導者による支援 ①課題提示: 第 I 期は「構成行為の模範を示す」、「完成モデルを示す」、いずれかに分けて行った。第 II 期は「完成モデルを示す」のみとした。②点検活動: 第 I 期は「言葉かけと手話・身振り、指差し」、第 II 期は「指差しのみ」で指示した。

3. 結果 課題実施結果を Table 1 に示す。

4. 考察

(1) 獲得したスキル 開始当初「左に配置したカップから順番に手にとって中央のカップへ重ねる」固執行動が見られたが、大小関係に基づいて「大きいものから順に重ねる」方略使用が始まり、「入れ子状態のまとまりを作る」方略使用に基づいて操作するようになった。構成課題に対して、どのような順序でプランを遂行するか見通しが立つことで、一定の方略に固執せず、状況に応じた方略を使用し構成行為を行うようになったと推測される。

(2) 方略使用の促進 本研究の結果から、構成課題において、遂行状態と目標状態を見比べる行動(解決者の点検活動; 渡辺, 2003)を活性化するように支援することで重度の自閉スペクトラム症を有する生徒の状況に応じた方略使用を促進できることが明らかになった。方略を使用できるようになることで、既得の行動に固執している状態から状況に応じて方略を選択する状態に移行できると推察される。

5. 参考文献

渡邊雅俊・若松唯晃・梅谷忠勇(2002) 知的障害児の問題解決行動に及ぼす手がかり教示の効果. 千葉大学教育学部研究紀要, 50, 121-125.
 渡邊雅俊・若松唯晃・梅谷忠勇(2003) 知的障害児の問題解決行動における自己修正の特徴に関する研究. 千葉大学教育学部研究紀要, 51, 155-160.
 (KIYAMA Kiyotaka, HIGUCHI Kazuhiko, OGAWA Iwao, MISHIMA Shuji)

Table 1 課題実施結果

課題内容	実施日	6月	7月	7月	9月	9月	10月	10月	10月	10月	10月	11月
		26日	1日	8日	16日	25日	2日	7日	14日	23日	28日	13日
3個異色	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モデルのない構成行為 (入れ子課題)	3個同色	◎	-	△	-	-	◎	-	-	-	-	-
	5個同色	-	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-
	5個と大容器の課題	-	-	-	-	-	-	◎	◎	◎	◎	◎

◎: 課題が完成できた日、△: 課題が完成しなかった日、-: 実施していない日